

# 第15回五霞町

## 青少年の主張大会

第15回五霞町青少年の主張大会は、新型インフルエンザの感染拡大防止という観点から、ピデオによる主張発表という形で、12月17日に実施しました。

今回は、各学校にて児童生徒の主張発表を録画していただき、その発表の様子を上映し、審査委員のみなさんに審査をしていただきました。

表彰式は、改めて1月27日に開催し、町長、町議会議長、教育長、青少年育成町民会議会長、青少年相談員協議会長から、表彰状と盾が手渡されました。受賞者は次のとおりです。

### 《受賞者名》

(敬称略)

- 五霞町青少年問題協議会長賞  
五霞中学校3年 栗原 周音
- 五霞町議会議長賞  
五霞東小学校5年 菊地 麻晶
- 五霞町教育委員会教育長賞  
五霞西小学校6年 中川 瑞紀
- 青少年育成五霞町民会議会長賞  
五霞中学校2年 渡辺菜々子
- 五霞町青少年相談員協議会長賞  
五霞東小学校6年 松本つかさ
- 優秀賞  
五霞西小学校5年 神谷 万優

- 五霞中学校1年 知久未來香
- 五霞中学校1年 香取 千章
- 五霞中学校2年 薄井 ひろき
- 五霞中学校3年 小野寺 丈希



受賞者のみなさん

### 「臓器移植法」が

#### 投げかけたもの

五霞中学校 3年

栗原 周音



私の家族は毎年、5月の連休に母の実家がある群馬県に行きます。しかし、今年は途中思わぬハプニングがありました。

それは川で遊ぶ妹を見守っていた母が妹に気をとられた、ほんの一瞬でした。何かの拍子に母はかばんを川に落としてしまったのです。父が追いかけて、拾い上げたものの、中身はびしょぬれです。

実家に着くと母はさっそく財布の中身を新聞紙の上に広げ始めました。何枚ものカードの中に、一枚だけ黄色い紙のカードがよく見ると、「臓器提供意思表示カード」と書かれています。思わずそのカードを手に取り、裏返してみると、こう書かれています。

「該当する1. 2. 3の番号を○で囲んだ上で、提供したい臓

器を○で囲んでください。  
1. 私は脳死の判定に従い、脳死後、移植のために○で囲んだ臓器を提供します。2. 私は心臓が停止した死後、移植のために○で囲んだ臓器を提供します。3. 私は臓器を提供しません。」

そして署名年月日、本人署名、家族署名と続きます。母は1. 2の番号に丸をつけ、すべての臓器を丸で囲んでいました。署名年月日には2004年11月8日とあり、本人署名の横に「使えるものをすべて使ってください。」とありました。

私は母がこのカードを財布に入れていたことに驚き、なんとなく悲しい気持ちになりました。母に何も起こらないように、と心の中で祈りました。

それからは、日本の移植医療が大きく変わるといふニュースが報じられるたびに、気になるようになり、「本人の意思がわからなくても家族の同意さえあれば臓器提供ができるようになり、子供からの臓器提供も可能になる。」とする趣旨の法案採択を、私は食い入るように見守りました。ついに、「脳死は人の死」を前提に法案が可決、成立したとき流れたのは、対照的な二組の夫婦の映像です。頭を深く下げ、涙を浮かべている夫

婦。そして、深くため息をつく別の夫婦。  
涙を浮かべる夫妻の長男は重い心臓病でした。海外での移植のために2億円という費用を募金で集め、渡航直後に亡くなりました。悲劇を繰り返してはいけません。15歳未満の子供の臓器提供を認める移植法の改正を求める活動を始めたそうです。